

## 国立研究所60周年記念植樹を行いました

2019年10月18日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、2019年10月16日（水）に国立研究所において、役員ならびに協力会社役員の列席のもと、国立研究所60周年記念植樹を行いましたのでお知らせいたします。

鉄道総研 国立研究所の前身である日本国有鉄道 鉄道技術研究所が浜松町（東京都港区）から現在の地（東京都国分寺市）へ移転して60年となります。1959年10月16日に十河信二国鉄総裁、島秀雄技師長他国鉄内外関係者約200名の列席を得て国立本館の披露式が挙行されました。この日から60年たった2019年10月16日に正田英介会長と熊谷則道理事長が桜（ソメイヨシノ）を記念植樹しました。また、国立移転60周年を記念して、当時の鉄道技術研究所の写真を、2019年11月1日まで国立研究所エントランススクエアにて展示しています。



植樹を行う正田会長（右）と熊谷理事長（左）



銘板



記念植樹列席者

# News Release

## 【国立研究所 60 周年記念植樹における理事長あいさつ】

当時の鉄道技術研究所が国立に生まれて、丁度 60 年になりました。当時、十河総裁、島技師長、大石常務理事等々、また東京工事局、東京電気工事局など建設を担って頂いた方々を含め総勢 200 余名がお集まりになられて新築披露式が挙行されました。60 年たったこの時期にもう 1 回、その当時の研究所に求められていた意義およびその後の活動を噛みしめていきたいと思ひます。植樹というささやかな行事ですが、気持ちを引き締めてまいりたいと思ひます。十河総裁の言葉が残っていまして、企業内の研究所の価値について、また鉄道が経済に寄与するか、あるいは衰えて記念物になるか、今岐路に立っているとお話をされ、さらに、研究所は人が大事なのだと、人の和が大事なのだと、ということをお話になり、また激励をされました。

さて、私たちは 60 年を経て、当時の DNA を継続して持っているか、ということを経員・職員が自ら問うてみることも必要であります。「持っている」と私は思うのでありますが、60 年の歴史の中で先輩たちが築いたものであります。また総合技術研究所に 32 年前に代わってからリニアの開発、高速化への貢献、地震対策など色々な局面で実力を発揮してきたのではないかとと思ひますが、次の 60 年も持続的発展できるように、油断することなく、気を引き締めて、研究開発を実施していくことを、力を込めて発信していきたいと思ひます。

次の時代の鉄道はどうあるべきか、いろいろ議論してまいりました。1 つ安全の問題とか、それをデジタル化の手法を使って革新していくのだということ、それから独創的な大型試験設備、および高度コンピューターシミュレーションの手法は 60 年前にはまだまじなかつたものですが、これが進歩しましたし、様々な実験のデータの蓄積もありますので、これらの総合力を鉄道の技術革新につなげてまいりたいと思ひます。そういう気持ちを込めて植樹をしたいと思ひます。



国立研究所エントランススクエアにおける写真展示

公益財団法人 鉄道総合技術研究所

〒185-8540 東京都国分寺市光町 2-8-38